

特別講演 1

「心血管系を考えた今日の糖尿病治療 ～循環器医の視点から～」

桜橋渡辺病院 副院長

岩倉 克臣 先生

全心血管系合併症は糖尿病症例の予後を左右する重要な因子であるが、従来の糖尿病治療では重大心血管イベント（MACE）を十分に抑制出来なかった。近年 SGLT2 阻害薬が糖尿病患者の MACE を低下させること、心不全の抑制がその中心的な役割を果たすことが明らかになった。SGLT2 阻害薬は糖尿病性腎症（DKD）の進行も抑制し、心腎連関への効果も期待される。

心血管系への効果を考慮し、既に欧米のガイドラインでは SGLT2 阻害薬の積極的な投与が推奨されるようになっている。一方、本邦で多く処方される DPP-4 阻害薬はアジア人において有効性が高く、MACE を増やさない安全な薬剤である。

しかし DPP4 阻害薬には心不全へのリスクが懸念される薬剤もあり、心血管系への影響を考えての選択および他剤との適切な組み合わせが必要である。

本講演では SGLT2 阻害薬を中心として、心血管系を考えた糖尿病治療戦略について考えていきたい。